

今冬の北陸エリア電力需給実績

2021年3月31日
北陸電力送配電株式会社

当社は、今冬の北陸エリアにおける電力需給実績について取りまとめましたので、お知らせいたします。

今冬は、12月下旬以降、全国的に厳しい寒さが続き、例年に比べ、電力需要が大幅に増加したことにより、燃料在庫が低下する状況になったことなどから、1月上旬から中旬にかけて全国的に電力需給がひっ迫する状況となりました。

そのような状況の中、お客さまに節電のご協力をいただいたことに加え、当社グループでは供給力の確保に向けた追加対策に努めた結果、安定した電力をお届けすることができました。

お客さまにおかれましては、節電へのご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。引き続き、電気の効率的なご使用について、ご理解、ご協力をお願いいたします。

今後も、当社としては電気設備の保守点検を確実に実施する等、引き続き電力の安定供給に努めてまいります。

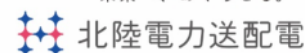
以 上

別紙：今冬の北陸エリア電力需給実績の概要

今冬の北陸エリア電力需給実績の概要

2021年3月31日

未来へ、めぐらせる。



©2021 | Hokuriku Electric Power Transmission & Distribution Company, All Rights Reserved. | CONFIDENTIAL

1. 今冬の需給バランス

1

- 今冬(12～2月)の北陸エリアの最大電力は、1月8日(金) 10時～11時の534万kWとなった。
- 同日の供給力は546万kWとなり、予備率は2.2%と厳しい需給状況であった。
- 1月7日および8日は、寒冷な気候条件が続いたことで、北陸エリアの需給バランスを保つ調整力電源等の供給力が不足し、需給状況が悪化するおそれがあったため、他エリアから融通電力を受電した。

	最大電力発生日 1/8(金)実績	1月見通し	(参考) 予備率最小日 1/7(木)実績
供給力	546	561	511
最大電力	534	537	505
予備力	12	24	6
予備率	2.2%	4.5%	1.1%

注1. 実績は全て速報値

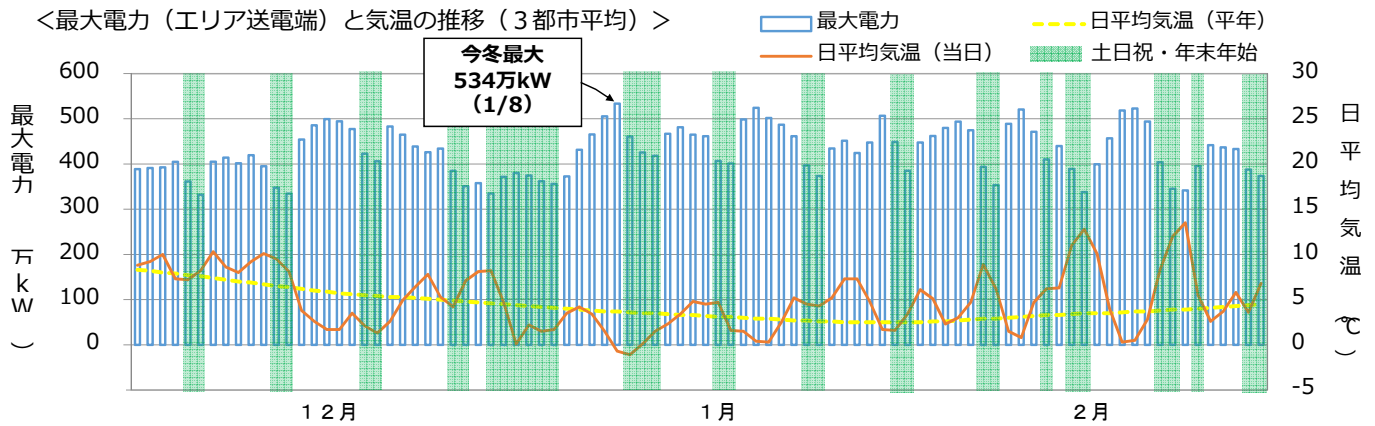
注2. 「1月見通し」は2020年度供給計画値を基に厳寒による需要増を考慮(2020年10月28日公表値)

注3. 四捨五入の関係で合計が合わないことがある。

2. 最大電力および気温の推移（12月～2月）

2

- 日平均気温について、12月・2月は平年に比べ高かったが、1月は平年に比べ低かった。
- 降雪量および最深積雪について、12月～1月は平年に比べ多かった。特に、1月においては、降雪量は平年比+16cm、最深積雪は平年比+55cmとなり、雪が多かった。
- 今冬の最大電力を記録した1/8(金)は、日平均気温 -0.7°C 、降雪量 38cmとなり、厳しい気象状況であった。



<気象状況（富山・金沢・福井の3都市平均）>

() 内は平年との差

	日平均気温 [$^{\circ}\text{C}$]			降雪量 [cm]			最深積雪 [cm]		
	12月	1月	2月	12月	1月	2月	12月	1月	2月
2020年度	6.2 (+0.1)	2.9 (▲0.3)	5.7 (+2.3)	50.3 (+5.0)	150.0 (+16.0)	64.3 (▲38.7)	23.7 (+5.4)	100.0 (+54.7)	33.3 (▲6.4)
平年	6.1	3.2	3.4	45.3	134.0	103.0	18.3	45.3	39.7

© Hokuriku Electric Power Transmission & Distribution Company, All Rights Reserved. | CONFIDENTIAL

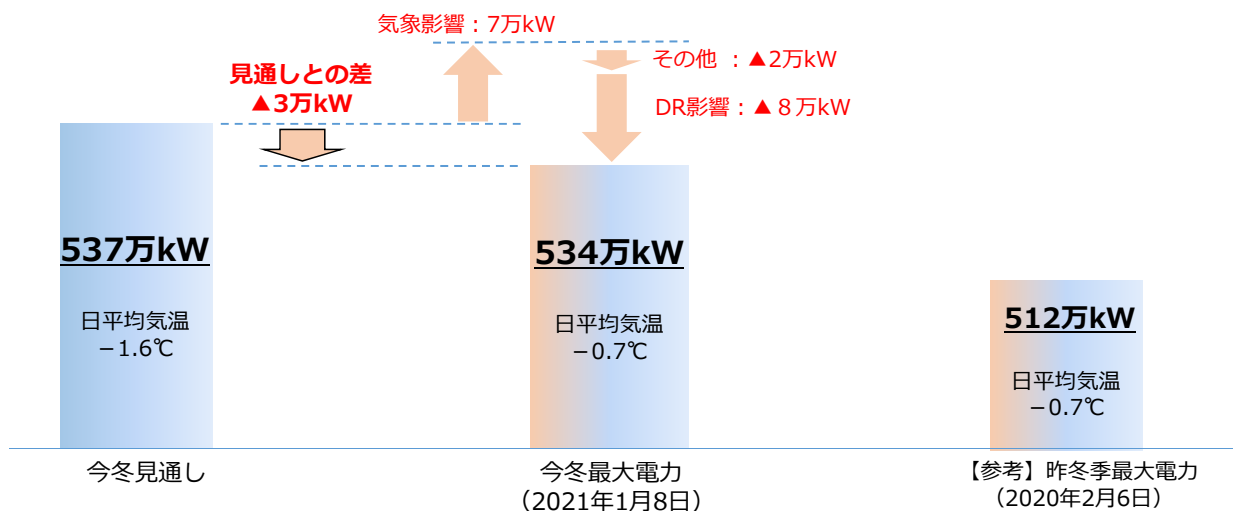
3. 今冬最大電力実績と見通しとの比較

3

- 今冬の見通しでは、2017年度並みの厳寒（日平均気温 -1.6°C ）となった場合の最大電力を537万kWと想定。
- 今冬最大電力実績は534万kWとなり、今冬見通しを3万kW程度下回ったものの、降雪等の影響が大きく、DR※等がなければ、今冬見通し（537万kW）や冬季過去最大電力を記録した2017年度実績（541万kW）を更新した水準と推定。
- 差異の内訳は、気象影響が7万kW程度、DR影響が▲8万kW程度、その他（経済影響等）が▲2万kW程度と推定。

※DR（デマンドレスポンス）：厳気象時、予め契約している事業者に依頼して需要を抑制

<今冬最大電力実績と見通しとの比較>



© Hokuriku Electric Power Transmission & Distribution Company, All Rights Reserved. | CONFIDENTIAL

・ 12月下旬から1月中旬にかけて、北陸電力送配電および北陸電力では、行為規制に配慮しつつ、安定供給確保のためにグループ一体となって最大限の追加対策を講じた。

■各社間ひっ迫融通拡大（北陸電力送配電）

- ・全国的に需給状況が厳しい場合は、各エリアの予備力を安定供給維持できる分まで減少させ、生じた余力を供給力が不足するエリアへ融通送電し、安定供給を確保した。

【他エリアからの融通電力受電実績】

受電実績日	受電最大出力	受電元エリア
1月7日(木)	最大 35万kW	北海道、中部、関西
1月8日(金)	最大 30万kW	東京、中部
1月15日(金)	最大 30万kW	九州
1月16日(土)	最大 40万kW	東京、九州

【北陸エリアからの融通電力送電実績】

送電実績日	送電最大出力	送電先エリア
12月15日(火)	最大 20万kW	関西
12月16日(水)	最大 15万kW	中部、関西
12月27日(日)	最大 50万kW	関西
12月28日(月)	最大 25万kW	関西
1月3日(日)	最大 20万kW	東京
1月4日(月)	最大 10万kW	東京
1月5日(火)	最大 20万kW	関西
1月6日(水)	最大 20万kW	関西
1月8日(金)	最大 10万kW	中国
1月9日(土)	最大 20万kW	関西、中国
1月10日(日)	最大 35万kW	関西、九州
1月11日(月)	最大 20万kW	関西
1月12日(火)	最大 11万kW	関西、中国
1月13日(水)	最大 5万kW	中国
1月14日(木)	最大 10万kW	関西

■調整力「電源I'」の活用（北陸電力送配電）

- ・北陸電力送配電が予め契約している、10年に1回程度の厳気象時等の稀頻度な需給ひっ迫時において、需給バランス調整を実施するための調整力（電源I'：契約5.0万kW）を活用

■ 自家用発電の追加調達（北陸電力送配電）

- ・特定自家用電気工作物を保有されている事業者さまへ増出力を依頼し、追加供給力として調達

■ 高圧発電機車による送電（北陸電力送配電）

- ・供給力確保に万全を期すため、高圧発電機車を電力系統に接続し発電（合計10台 約2,400kW）

富山県（富山市、高岡市、魚津市）	4台	約1,000kW
石川県（野々市市）	3台	約700kW
福井県（永平寺町）	3台	約700kW



▲高圧発電機車による送電（富山市）

■ お客さまに節電へのご協力をお願い（北陸電力、北陸電力送配電）

- ・お客さまに、日常生活に支障のない範囲で、電気の効率的な使用へのご協力を呼びかけ

■ 自社グループにおける節電

- ・オフィスビル等における節電の強化

■ 火力発電所の増出力運転（北陸電力）

- ・火力発電所の発電機定格出力を超えた運転をすることで追加供給力として活用

■ 貯水池式水力発電所の増発（北陸電力）

- ・当初予定以上に貯水池式水力発電所を活用し供給力を確保



▲冬の有峰ダム

未来へ、めぐらせる。

